

互いの文化の交流を

9月23日から3週間、日本の子どもたちが描いた絵を持ち、モンゴルを訪問した布目さん。互いの文化を学び、交流をしてみようとおうと始めたこの活動は今回で3回目。日本から持参した絵は首都ウランバートルの幼稚園に届けられ、代わりに現地の園児たちが描いた絵を日本に持ち帰りました。90年代、報道などでモンゴルのマンホールの中で暮らす貧しい子どもたち「マンホールチルドレン」の存在を知り、「衝撃を受けた」と言う布目さん。平成9年に初めてモンゴルを訪問し、以来、日本で教職を務めながらも、た

びたび日本語教師としてモンゴルを訪問し、教育支援や子どもたちとの交流を続けてきたと言います。今回の訪問では、ロシアとの国境付近の都市ダルハンの学校も訪問し、生徒たちと習字や折り紙などで交流も行いました。「現地の人との触れ合いも楽しい」と話す布目さん。「活動を始めた当初は貧しかったモンゴルも、今は街中にビルも多く建ち、豊かになってきました。幸いにも支援してくれる人がたくさんいるので、できるうちは交流を続けていきたい」と今の思いを話してくれました。



子どもたちが描いた絵を通して日本とモンゴルをつなぐ

ぬのめ きよこ
布目 聖子さん(藤岡)

Profile

1943年東京都生まれ。日本・モンゴル文化交流ネット日本事務局。日本語教師としてモンゴルをたびたび訪れ、日本とモンゴルの交流に熱心に取り組む。

知って得する♪
耳より情報

今が最盛期!
シンビジウム

藤岡市は関東を代表するシンビジウムの産地であり、特産品の一つでもあります。

シンビジウムの出荷は11月から始まり、12月が最盛期です。市内では約50~60種類の品種を栽培しており、主にお正月飾りやプレゼント用の切り花として、都内の市場を経由して全国各地へと出荷されていきます。

市内では、ららん藤岡で購入することができますので、手に取って美しい色と香りを楽しんでみてはいかがでしょうか。

